

# 男の世界

## 動物園音楽少女

私の家族には現在3歳と1歳の男の子がいます。男の子の例外に漏れず2人とも車や電車が大好きです。不思議だなと思うのは私からはそれらを好きになるよう教えたことは一度もないのに彼らはそれらに夢中になりました。

彼らを惹き付けるのはその造形もそうですが、複雑な機械が魅力的なようです。例えば男の子なら誰しも親から買ってもらうトミカのミニカーですが、普通の車よりもブルドーザー、ダンプカーやクレーン車などの作業車を好みます。のっぺりとして個性に欠ける普通車よりも機能美と言って良い作業車の方が彼らにはずっと魅力的なのです。

同じく男の子の定番であるトミカのプラレールもそうで、中途半端なスピードで走る特急よりも、より早く走るために造られた新幹線がお気に入りです。また反対にスピードは遅いけれど蒸気機関車もお気に入りです。多分クランクの往復運動が回転運動に変換し車輪を回す仕組みが魅力的なんでしょう。うん、わかりやすい。

同じ歳くらいの女の子を持つ友達に聞いてみると、やはりというか当然、乗り物にはたいして興味を示さず、おままごとやお人形さんで遊んでいるそうです。

これって遺伝子に組み込まれているのでしょうか？男の子には“機械が好きになる遺伝子”が女の子には“ままごとが好きになる遺伝子”が存在するのでしょうか？

男の子も女の子も成長してからもずっとこの遺伝子を引きずります(いや、そんな遺伝子があればの話ですが)。

女の子は成長してからも料理などままごとの延長に興味を持ちます(あくまで一般論です)。

男の子が成長してもやっぱり乗り物や機械類に興味を持ったままになります。多分それは女の子よりも強く引きずり、いくつになっても新車が発表されるとワクワクしたり、新しいAV機器が出るといち早く買ってみたりします。

そう、これは男の世界なのです。女性には理解できない男の世界が存在するのです(ペンネームは少女ですが、筆者は男性です)。



お兄ちゃんと作ったプラレールのレイアウト



左: 次男お気に入りのゴミ収集車  
右: お兄ちゃんお気に入りのモーターグレーダー

私は松阪食肉衛生検査所理化学班に所属しています。理化学班はその名のとおり理化学検査をしますが、理化学検査とは主に食肉の残留抗菌性物質の有無について検査します。

検査方法は大きく分けて定性試験と定量試験の二つがあります。

あらかじめ細菌を混ぜた寒天に筋肉等を置き、18時間培養します。筋肉等に抗菌性物質の残留がなければ寒天の一面に細菌が生えてきます。逆に抗菌性物質の残留があれば筋肉等の周りだけ細菌は発育しません。この発育しない部分を阻止円と呼び、どの細菌に阻止円をつかったかで、残留抗菌性物質の種類を推測します。これが定性試験です。

定量試験とは、まず検体となる筋肉等から脂肪、水分、タンパクなど余分な物質を除去・精製し、目的とする抗菌性物質をフィルターで集め抽出します(文章で書くと簡単ですが、1つの検体を処理するのに半日は要します)。次に精製・抽出を行った検体を液体クロマトグラフィーにより目的とする抗菌性物質がどれだけ残留していたかを測定します。

液体クロマトグラフィーの原理についてはここでは省略します。興味がある方はネットで検索すれば丁寧な解説を見つけることが出来ると思います。

私が書きたいのは液体クロマトグラフィーに使用する装置、液体クロマトグラフ、通称「プロミネンス」です。初めてそれを見たとき、私の体に電流が流れました。黒とグレーのツートンで統一されたシックな佇まいは欧州の高級車を思わせます。何本も伸びたゴム管や配線はPA機器を連想させます。精巧に造られたポンプやオートインジェクターはバイクのエンジンに似ています。ずっしりとした分離カラムは最新のステアリングダンパーかと思いました。



プロミネンス

分離カラム



ポンプ部

オートインジェクター部

「カッコいい！」

私の中で男の子的興味がむくむくと湧いてきました。

「触りたい…」

そして触りました。操作しました。プロミネンスは動かしてみるともっとカッコよく、液体を送液する「ウインウイン」という音、検体を注入する「サクッ、チューーン」という音、それらは私を魅了するに充分でした。以来私はプロミネンスの虜になっています。

そう、理化学検査は男の世界なのです。

私はここ松阪食肉衛生検査所の中で男の世界に生き、そして日々男を磨いていきたいと思っています。